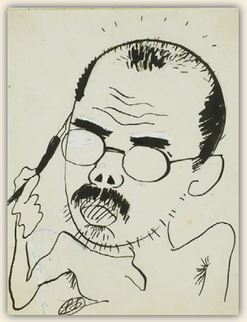
文書が映す安曇野の文化⑮　望月（もちづき） 桂（かつら）

令和７年４月５日～７月６日に、原爆の図丸木美術館（埼玉県東松山市）で企画展「望月桂　自由を扶くひと」が行われました。展示を見に行かれた方もいらっしゃるかと思いますが、多くの方が「望月桂って誰？」と疑問に思われたかもしれません。

望月桂（明治19年～昭和50年、戸籍上の生年は明治20年）は明科出身の画家で、犀川凡太郎の名で社会風刺の漫画も描いていました。また、アナキストとしても知られ、大杉栄や堺利彦、和田久太郎、久板（ひさいた）卯之助らとも交流を持ち、日本におけるアンデパンダン展（無審査・無賞・自由出品を原則とする美術展）の最も早い例のひとつである「黒耀会展」を開催します。さらに、地元明科で農地改革や農民組合の設立に尽力するとともに、晩年は当時の松本松南高等学校で美術教師として働いていました。



「望月桂（自画像）」大杉栄との共著『漫文漫画』の原画より

望月桂に関する資料は、令和４年から望月桂調査団（代表・二松学舎大学　足立元准教授）による悉皆調査が行われ、現在も続いています。また、令和７年３月にご遺族から安曇野市教育委員会へ資料が寄託され、絵画資料は安曇野市美術館に、日記や原稿等の資料は当館に収蔵されています。資料には未公開であったものも含まれ、望月に関する研究がさらに進むことでしょう。

当館でも望月桂の資料の調査・研究を進めており、令和８年度に望月桂に関する企画展や講演会等を開催する予定です。お楽しみに！

《製糸工場（女工）1920年》（安曇野市美術館蔵）

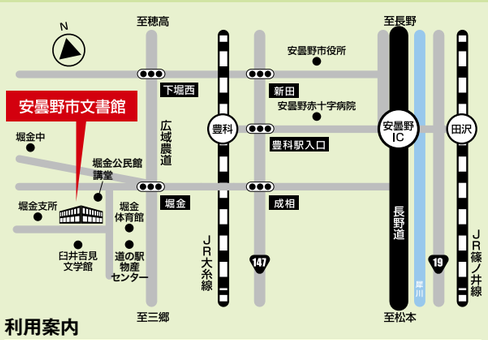
企画展等の予定

- **大庄屋山口家講座**
  【日時】
  ① 令和８年１月18日（日）13:30～15:00
  ②　　２月16日（月）13:30～15:00
  ③　　３月21日（土）10:00～11:30（臨地講習）
- **バックヤードツアー**
  【日時】　令和８年２月15日（日）13:30～15:00

令和8年度企画展

- **前期企画展　「人物顕彰 望月桂」（仮）**
  【期間】　令和８年５月10日（日）～８月30日（日）
- **後期企画展　「古文書にみる安曇野」（仮）**
  【期間】　令和８年９月13日（日）～12月27日（日）

■安曇野市文書館 案内図■



利用案内

【開館時間】　午前9時～午後5時
【休 館 日】　土曜日、祝日、12月29日から1月3日
【駐 車 場】　約50台（堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用）

ACCESS

長野自動車道安曇野ICから約5km、自動車で約10分
JR大糸線豊科駅から約3km、自動車で約6分

あとがき　長野県立歴史館企画「安曇野～知られざる里山の祈り～」を参観してきました。中心になって企画をされた小林さんが「何百年、何千年と守ってこられた私たちの先輩がいてくれたことに「有難さ」を感じるようになりました。」と語ってくれました。当館の今年の「市制施行20年、戦後80年」企画では、令和７年の今を生きる私たちにつなげてくれた先人たちの歩みを、当時に生きた人たちが記した生の記録を通して確認することができました。これこそが、文書館があることの意味や価値であると思います。

安曇野市文書館
安曇野市文書館だより　第 15 号　編集・発行　安曇野市文書館　発行日：令和７年９月７日発行
〒399-8211 長野県安曇野市堀金烏川 2753 番地１　TEL 0263-71-5123　FAX.0263-71-5127
E-MAIL bunshokan@city.azumino.nagano.jp　URL www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/

安曇野市 文書館だより

第 15 号

後期企画展　安曇野市制施行20周年記念・戦後80年平和事業「手記 80年の時を超えて」

企画展趣旨

令和７(2025)年は、昭和20(1945)年の終戦から80年を数えます。当館には、戦争と向き合った先人の手記（従軍記、日記、郵便、作文、学校日誌）約700点が収蔵されています。この80年間、ご家庭や地域の公民館、学校などに大切に保管され、受け継がれてきた資料（記録）です。当時、この地で何が起きていたのか、その時どんなことを考えていたのかを知るとともに、平和な社会の実現に向けて私たちができることを考えあう機会とします。

戦地から届いた軍事郵便（上鳥羽区資料）

○展示資料

- 従軍記　「日露従軍記　明治38年」（丸山岩水家文書）
- 日記　「戦争日記（暗黒日記）」・「欧米日記」・「スクラップブック」（清澤洌文庫）
- 郵便　「軍事郵便」（下堀区有文書、上鳥羽区資料、下田忠壽氏資料、矢口家文書）
- 軍隊手帳「軍隊手帳」（上原良司資料、三原寿雄家資料、笠原家（蔦屋）資料、丸山英二氏資料）
- 作文集　「温明小学校同級会誌「草笛」」（矢口雅希氏資料）、「作文集温明小学校」（三郷小学校）、「文集つくし」（穂高南小学校）、「講和発行並びに憲法発令五周年記念作文」（堀金中学校）
- 学校日記「学校日誌」（昭和16年度～21年度）

期　間　令和7年9月14日(日)～12月28日(日)　**会　場**　安曇野市文書館１階閲覧コーナー　**入館料**　無料

講 演 会　「昭和100年　清沢洌の視点から」

【開催日時】令和７年９月21日(日)午後1時30分～午後３時(開場 午後1時)
【講　　師】柴田　紳一　氏（國學院大學文学部史学科准教授）

講 座 1　「７銭に思いを載せて」

【開催日時】令和７年10月26日(日)午前10時～午前11時30分
(開場 午前9時30分)
【講　　師】平沢　重人（文書館館長）

講 座 2　「安曇野で戦争を考える」

【開催日時】令和７年11月16日(日)午後1時30分～午後３時(開場 午後1時)
【講　　師】幅　国洋（文書館職員）

＜講演会・講座＞

参加費　無料
会　場　安曇野市 堀金公民館講堂
事前申込　必要（電話、FAX、メール）

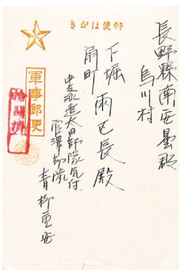
○講演会：8月26日(火)から
○講座1・2：9月24日(水)から

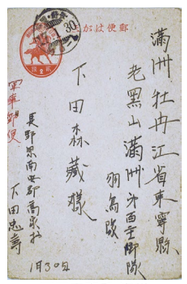
安曇野市文書館ホームページ▶▶

戦場と銃後をつなぐ軍事郵便

出征兵士とその兵士を国内で支えてきた家庭や地域住民とをつなぐ唯一の手段が、戦時下での郵便、軍事郵便でした。当館には、674通の葉書や書簡が収蔵されています。その資料を見ると、戦地から出征兵士が送ったものは無料ですが、戦地の出征兵士に宛てて送ったものは有料であったことがわかります。またすべての郵便には、検閲済の印が押されています。

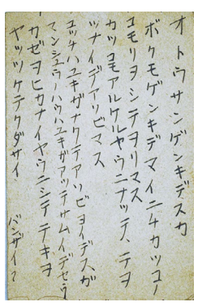
軍事郵便は、２種類に分けることができます。ひとつは、出征兵士と家庭とのやり取りです。もうひとつは、兵士を送り出した地域住民とのやり取りです。


下堀区有文書


下田忠壽氏 資料

○家庭とつなぐ

今年89歳になる豊科にお住いの下田さんは、昭和17年１月30日戦地の父親に宛て、葉書を書いています。「**オトウサンゲンキデスカ　ボクモゲンキデス　マイニチカツコノコモリヲシテイマス　カツコモアルケルヤウニナッテ　テヲツナイデアソビマス　コッチハユキガナクテアソビヨイデスガ　マンシュウノハウハ　ユキガアッテサムイデセウ　カゼヲヒカナイヤウニシテ　テキヲヤッツケテクダサイ　バンザイ**」


下田忠壽氏 資料▶

○地域とつなぐ

親族や隣組の方が総出で、最後には万歳の雄叫びを上げて、出征する兵士を見送る映像を見た方は多いでしょう。当館収蔵の軍事郵便の９割は、兵士が区長や耕地総代、青年団団長などに宛てたものです。次は下堀と扇町の区長に宛てた葉書です。「（略）**蒸し暑い中支の炎熱下に於いて、銃後の皆様方に感謝を捧げて奮闘致し居り候　銃後に於いて生活多難な秋（とき）各種団体と共に一致協力銃後堅固強化あらゆる指導に精魂を打ち付けて進んで行かれる銃後の皆様方には我等兵士は共に調する所です。又留守中は種々御配慮に預り厚く御礼申し上げ候**」

地域の方から送られた生活品などが入った慰問袋へのお礼状も多くあります。戦地に届いた信濃毎日新聞から戦況がわかるという内容のものもあり、驚きました。地域住民を巻き込んだ挙国一致の戦闘態勢であったことがわかる資料です。

○開拓地満州とつなぐ

軍事郵便以外に満州国から送られた郵便があります。宛先は、上鳥羽女子青年団長です。満州国は戦地ではないので、満州国の切手が貼られています。消印に９年３月30日とありますが、昭和９年ではなく満州国の元号康徳９年、昭和17年にあたります。「（略）**北満の広野は実に沃土です。草の伸びること一丈余り見事なものです。我を待つ北満の広野もやはり男性のみでは発展しません。そこには連れ添う女性の進出が無ければこの北満開拓の偉業は成し遂げる事はできません。諸君にありても大陸へ進出して目下建設中の安曇郡へと進出して一日も早く東安省安曇郡を建設して国家国策の聖業を成し遂げんことを悠（はるか）な北満の地にて希望いたします**」『長野県満州開拓史』（1984年）によると南安曇郡下入植者は53戸154人とあります。

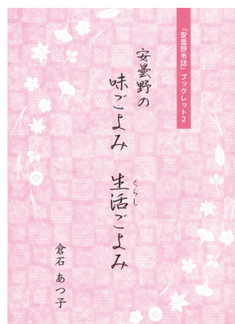
上鳥羽区資料

『安曇野市誌』ブックレット　安曇野の多彩な文化を深掘（ふかぼ）り

安曇野市教育委員会では『安曇野市誌』の編さんを進めています。その調査・研究の過程でえられた新しい成果を、一冊1テーマのブックレットにまとめて頒布しています。これまでに三冊が発行されました。いずれも市誌編さん専門調査会民俗部会のみなさんによって、専門の立場から安曇野の文化と風土についてわかりやすく解説したものです。ぜひお手に取ってご覧ください。続編として考古部会のブックレットも予定されています。ご期待ください。

（ブックレットは一冊500円、安曇野市文書館および豊科郷土博物館でおもとめください。）

ブックレット1



ブックレット2

ブックレット3

内容の一部をご紹介します。

○ブックレット1『安曇野の道祖神ものがたり』倉石忠彦著（2022年12月）

道祖神の伝承・姿（文字碑・双体道祖神）・祭り（サンクロウ・オンバシラ）

（本書より）「筆者の最新の道祖神伝承論であり、安曇野の道祖神伝承の新しい姿に迫ることができたと自負している。」（倉石忠彦氏は2023年6月に他界され、本書が遺作となりました。）

○ブックレット2『安曇野の味ごよみ 生活（くらし）ごよみ』倉石あつ子著（2024年3月）

春夏秋冬…安曇野の四季の変化、年中行事のご馳走レシピ満載（ヤショウマ・筍とサバの味噌汁・鯉のうま煮など）

（本書より）「このレシピが…食生活の助けになったり、安曇野の食材の豊かさを見直すきっかけになったり、情報交換のネタにしていただければ望外の幸せである。」

○ブックレット3『安曇野文化圏の生成』福澤昭司著（2025年3月）

民俗文化圏（東西文化の違い・海岸と内陸）・特色ある民俗事象の分布（タカドーロー・道祖神の御柱・蚕神碑・大黒天碑など）・安曇野文化圏の生成

（本書より）「安曇野はそんな（北安曇と松本両方面の文化の）境界領域に位置して、文化が混じり合って形成されている」

読者の感想

明科に生まれ長野・松本に居住、10年前安曇野に転居した安曇野初心者の疑問…「なぜ豊科人（びと）はイゴ（＝エゴ）を食べない？」「サンクローは知っているけどオンバシラって何？」ブックレットがこんな疑問に答えてくれました（レシピのおかげで懐かしいエゴを作って美味しく食べました）。旧5町村の文化・習俗が独自性を保ちながらも共存し、新たな安曇野の文化を育んでいく、そんなイメージを膨らませました。